

1 信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。2 昔の人たちは、この信仰のゆえに神に認められました。3 信仰によって、わたしたちは、この世界が神の言葉によって創造され、従って見えるものは、目に見えているものからできなかったのではないことが分かるのです。

4 信仰によって、アベルはカインより優れたいけにえを神に献げ、その信仰によって、正しい者であると証明されました。神が彼の献げ物を認められたからです。アベルは死にしましたが、信仰によってまだ語っています。

5 信仰によって、エノクは死を経験しないように、天に移されました。神が彼を移されたので、見えなくなりました。移される前に、神に喜ばれていたことが証明されていたからです。6 信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神が存在しておられること、また、神は御自分を求める者たちに報いてくださる方であることを、信じていなければならぬからです。

7 信仰によって、ノアはまだ見ていない事柄について神のお告げを受けたとき、恐れかしこみながら、自分の家族を救うために箱舟を造り、その信仰によって世界を罪に定め、また信仰に基づく義を受け継ぐ者となりました。

本日わたしたちは、永眠者を覚える礼拝に集められました。名簿、あるいは写真の方々の生涯をおして、わたしたちに示された信仰における証言としての生涯を振りかえる礼拝です。その信仰について、ヘブライ人への手紙は、つぎのように教え説きます。

信仰とは、多くの人たちが望んでいることに確信を与えるものです。しかし、それは見えないのです。しかし信仰とは、見えないことであるけれども多くのひとびとの希望するものに確信を与えるものだと思います。

そして先だった人々は、この信仰を証言したのです。そして証言した聖書の三人の名前を挙げています。アベル、エノク、ノアです。

アベルは、神とのつながりを最優先させたがゆえに殺されました。よい行いのために周囲の嫉妬を買い、不条理な扱いを受けて、短命のうち生涯を終えるような人があれば、死が彼を葬り去るのではなく、むしろ彼が言葉と行いにおいて人々に語りかけたことは、死の後も人々の心に息づくでしょう。

エノクは神とのつながりを最優先させたがゆえに死を免れました。どんなに社会が暴虐に満ちていようと、いつも神と共にいるように、喜びに満たされて生きるならば、その人が死を迎えても、周囲には死んだという実感も残さず、突然神のもとに召されたのだと語り継がれるでしょう。

ノアは神との関わりを最優先させたが故に救われました。暴虐の世の中で、やがて来る破局に備えて、あたかも箱舟を

つくるかのように無理解と嘲笑のなかを生きるならば、彼は救いに与るでしょう。

このように信仰における三者三様の生き方をヘブライ人への手紙は思い起こさせます。

今日この礼拝においてわたしたちが覚える方々は、やはり信仰の証言者です。生涯の時々において信仰に与り、ひとりひとりの生涯において信仰によって証言を立てたのです。その証言は、より身近に生涯を共にされた方々に、必ずや使信を伝えていくことでしょう。それは目に見えないことですから、やはり信仰において理解することが求められています。

\*信仰がない者にとってはどうなのか

さらに、「こゝで「信仰」と訳されている言葉について掘り下げていきたいと思えます。この「信仰」という語は、「信頼」と訳してもかまいません。むしろ、つきなみな言葉「信頼」の方がよいかもありません。つまりキリスト教信仰がなくてもよいのです。――牧師が独断で不遜なことを言おうとしているではありません――

なぜなら、手紙が言おうとしている趣旨は、信仰と救いが、ただイエス・キリストによって実現されたというのです。キリスト教信仰に揺るぎない確信をもっているひとびとも、かつては信仰者ではありませんでした。信仰者となった今も不確かな判断で、日々の命をつないでいることが、信仰によりかえって明らかになります。

わたしたちは、不安や恐れにおののき、おぼつかない自分

でも良いという確信があります。だからキリスト教信仰がない者にとっては、なおきりのことなのです。

\*キリストの救い：時間理解から

信仰を証言したところの聖書がここで名をあげている三人（五人、アブラハム、モーセとさらに偉人をあげる）は、聖書の中の偉人ですが、アベルも、エノクも、ノアもキリストを知らなかったということと矛盾するのではないか？彼らが生きた時代は、キリストの到来以前でした。これもまたキリスト教信仰に与っていない者には、真の救いは理解できないのかという問いを發します。

ユダヤ教においてキリストを理解する時、イエスの死は罪のあがない、犠牲の小羊であります。過去の罪を身代わりとなって死につけられたのです。小さな羊がなぜ多くの民を救うことができるのですか？小さな者こそが、偉大な神の救いにふさわしいからです。（キリストはわたしたちの罪を取り除くただ一匹の羊、その血は、おびただしいひとびとの罪をいかにして取り除くのか？…10章）

わたしたちが、風に揺らぐ葦のように日々覚束ない歩みしかなくことができないう病をはじめ様々な困難に見舞われる時、不安や恐れにおのき、喜び以上につぶやきが多く、希望よりも悲観に傾きやすいくすれば…信仰者であろうともなかろうとも、わたしたちは決して立派とはいえないのも、わたしたちの器があまりにも小さいからです。

ただし、小さい器には大きな器にはない利点があります。そのひとつは、注がれる水がすべてにあふれるのです。つまり神の愛が注がれるとすべてにあふれて滴り落ちて、わたしに

とって恵みは十分であると、すべてに理解することが可能です。先だったひとたちも大同小異で、そのことを証言して生涯を送ったのだと思われまます。